世界初の平和条約

トルコの歴史を知れば知るほどトルコに魅せられる。トルコの歴史には、世界史が凝縮されている。

トルコ西部、エーゲ海地域にあるトロイ遺跡、ベルガマ遺跡、エフェソ遺跡、ヒエラポリス遺跡。地中海地区のペルゲ遺跡、アスペンドス遺跡。

そして、中央アナトリア地区のカッパドキアの地下都市・洞くつ教会の遺跡を見て、峡谷の寒村ボアズカレに着いた。

ボアズカレ、これまで一度も聞いたことのない地名だが、ここがヒッタイト人の王都、ハットゥシャがあった所で、世界で最初に鉄器を使用し、旧約聖書にも「ヘテ人」として登場する。

ヒッタイト人がアナトリア半島に入って来たのは紀元前二〇〇〇年よりも前のこと。ヒッタイト王、ハットゥシリ一世がハットゥシャ（現・ボアズカレ）に都を置いたのは紀元前一八〇〇年ごろ。

並立していた小王国を統一し、ヒッタイト帝国としてエジプト・シリアと並ぶほどの勢力を持ったのが紀元前十四世紀ごろである。

エジプトのラメセス二世軍と一度対戦するが、やがてエジプトとの間で不可侵条約が結ばれた。この条約が世界で最初の平和条約と言われるものである。

その後「海の民」と呼ばれる異民族の侵攻を受け、ヒッタイト帝国は滅びる。

一部は南に逃れて小国を作るが、紀元前七世紀にアッシリアに滅ぼされ、ヒッタイトは歴史から完全に姿を消した。

世界で最初に鉄器を使ったヒッタイト民族は、長く歴史の中で忘れられていたが、十九世紀、ドイツの考古学者、ウィンクラーがボアズカレの遺跡から粘土板文書を発見したことで再び歴史に登場し、今では世界遺産として登録されている。

ハットウシャ遺跡は広大な岩の多い牧草地帯、人影はほとんどない。遺跡に近づくと、岩陰からみすぼらしい服装の二人の男性が近づいて来て「シェンエン」と言って石の文鎮を差し出した。

「ノー、サンキュー」と断り、遺跡見学を終えてバスに戻ると、先ほどの男が今度は三つで千円という。

妻は「ほしい」と言ったが「重いので最後のイスタンブールで買おう」と断った。

しかし、イスタンブールではそのような土産品は見つからず、妻はあそこで買えば良かったと悔やんだ。

今考えると、いつ来るかわからない観光客を岩陰で待つ貧しい現地の男性のことを考えて買ってあげれば良かったと悔やまれる。もっと、自分の中に、その国を旅させてもらっているという感謝の気持ちを持って対応すべきだった。

四千年前の平和条約にはいろんな思惑もあったであろうが、結局「共生」である。

今も世界各地で民族紛争が続いている。人間は四千年たっても少しも進歩してないのだろうか。何かむなしい気持ちになった。

（元山口放送取締役ラジオ局長）

遺跡に三つある門の一つ〝獅子門〟

ラン科植物の根を粉末にした、伸びるアイスクリーム